



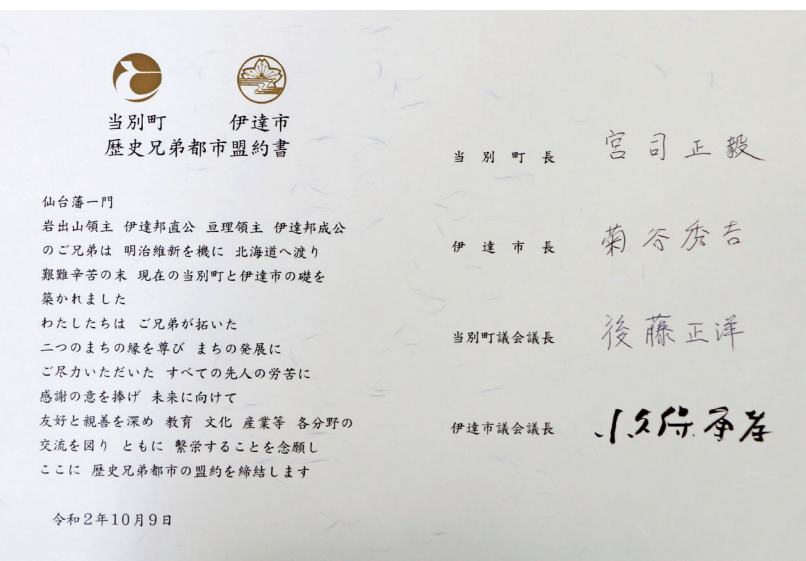
当別町・伊達市 歴史兄弟都市盟約締結



伊達市と歴史兄弟都市盟約を 締結しました

令和2年10月9日、当別町と伊達市は、歴史的な縁を基に、伊達邸別館において歴史兄弟都市盟約を締結しました。当別町からは、宮司町長、後藤議長、伊達市からは、菊谷市長、小久保議長が出席し、盟約書に署名をしました。

締結に当たり、宮司町長からは「今回の盟約締結を契機として、邦直公、邦成公のご兄弟のように伊達市、当別町は互いを案じ、協力し、未来に向けて友好と親善を一層深めましょう」、伊達市菊谷市長からは「末永く交流を進めていくためには子どもの交流が重要。経済、文化の交流も深め未来に向かって手を携えていきたい」と挨拶があり、今後の連携を確認しました。



盟約締結の経緯

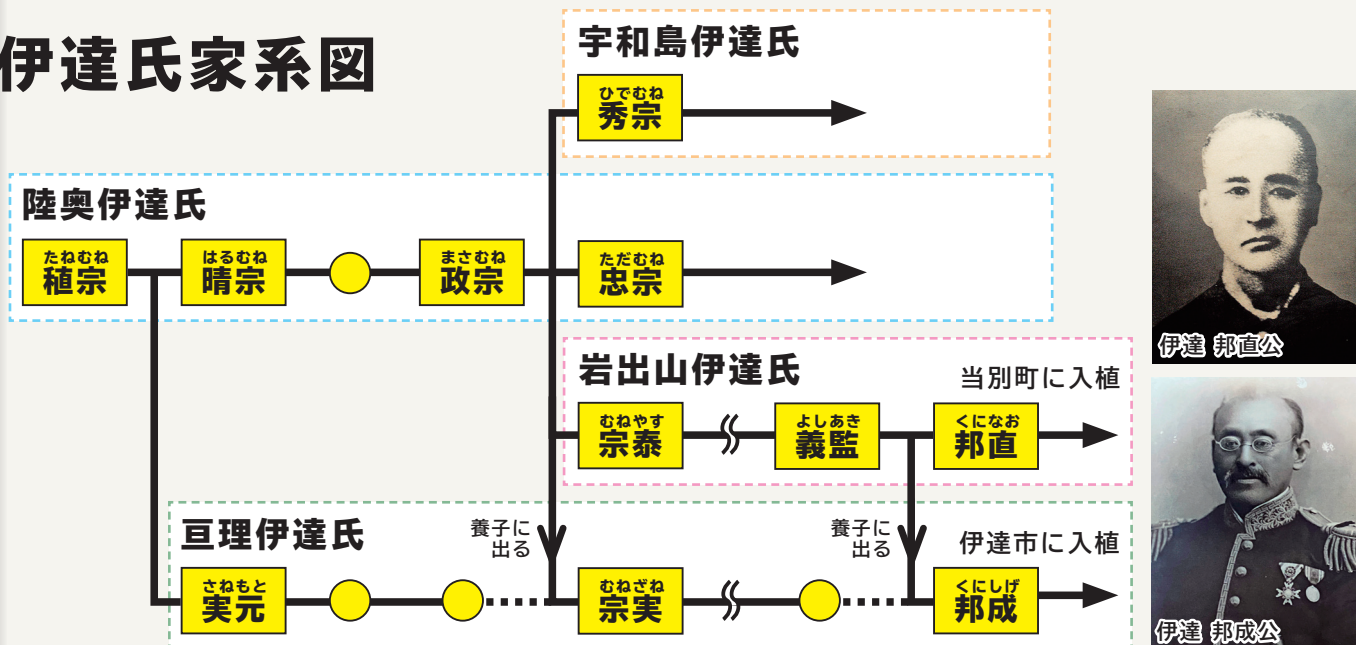
当別町は、仙台藩岩出山領主 伊達邦直公が、明治4年(1871年)に入植し開拓されました。伊達市は、仙台藩亘理領主 伊達邦成公が明治3年(1870年)に、北海道胆振国厚岸郡に入植し開拓されました。

邦直公と邦成公は実の兄弟であり、明治維新を機に北海道へ渡り、苦難の末、現在の当別町と伊達市の礎を築かれました。こうした歴史的な縁はあるものの、これまで長い間、両自治体間では特筆すべき交流は行われておりませんでした。

しかし、近年「当別音頭」や「すずめ踊り」など民間団体による相互交流や、伊達市主催のイベントに宮司町長、後藤議長が参加するなど、行政間での交流も活発に行われてきました。

歴史兄弟都市盟約書

伊達氏家系図



また、伊達市は令和元年に、当別町は令和2年に150年の節目を迎えるタイミングでもあり、これを契機に連携することができないかと、数年前から検討を進めてきました。その結果、これまで以上に両市町の経済・文化などの相互交流につなげていくことを確認し、「歴史兄弟都市」盟約を締結しました。

これからの交流について

それぞれの道の駅を拠点とした地場産品の販売などの経済交流をはじめ、歴史・文化交流などの可能性についても検討を進め、イベント等各種交流を通じて友好を深め、両市町の発展に繋げていきます。

伊達市の紹介

「北の湘南」と呼ばれる伊達市は、北海道の南西部噴火湾沿いに位置します。

基幹産業の農業は、暖かく恵まれた気候風土を活かし、多くの種類の野菜を栽培しているほか、噴火湾に面していることから、水産業も盛んで、ホタテや幻の魚とされている「マツカワ」が有名です。

また、洞爺湖有珠山ジオパークに指定されている有珠山、大滝区には北湯沢温泉郷があり、自然と調和した観光業も盛んで、道央自動車道、JR等アクセス環境を活かした食料品工業にも力を注いでいます。



伊達市データ

人口 約 34,000 人 面積 444.21km²

特産品
伊達野菜と呼ばれる約150種の野菜 (白菜、キャベツ、ねぎ、レタス等)
花卉 (グラジオラス、トルコギキョウ、デルフィニウム等)
漁業 (ホタテ、マツカワ等)
畜産、酪農

姉妹都市
ふるさと姉妹都市 宮城県巨理町、福島県新地町、宮城県山元町
姉妹都市 カナダ国レイクカウチン町
歴史友好都市 宮城県柴田町

